

羽田発着枠配分基準検討小委員会 羽田発着枠政策コンテストについて



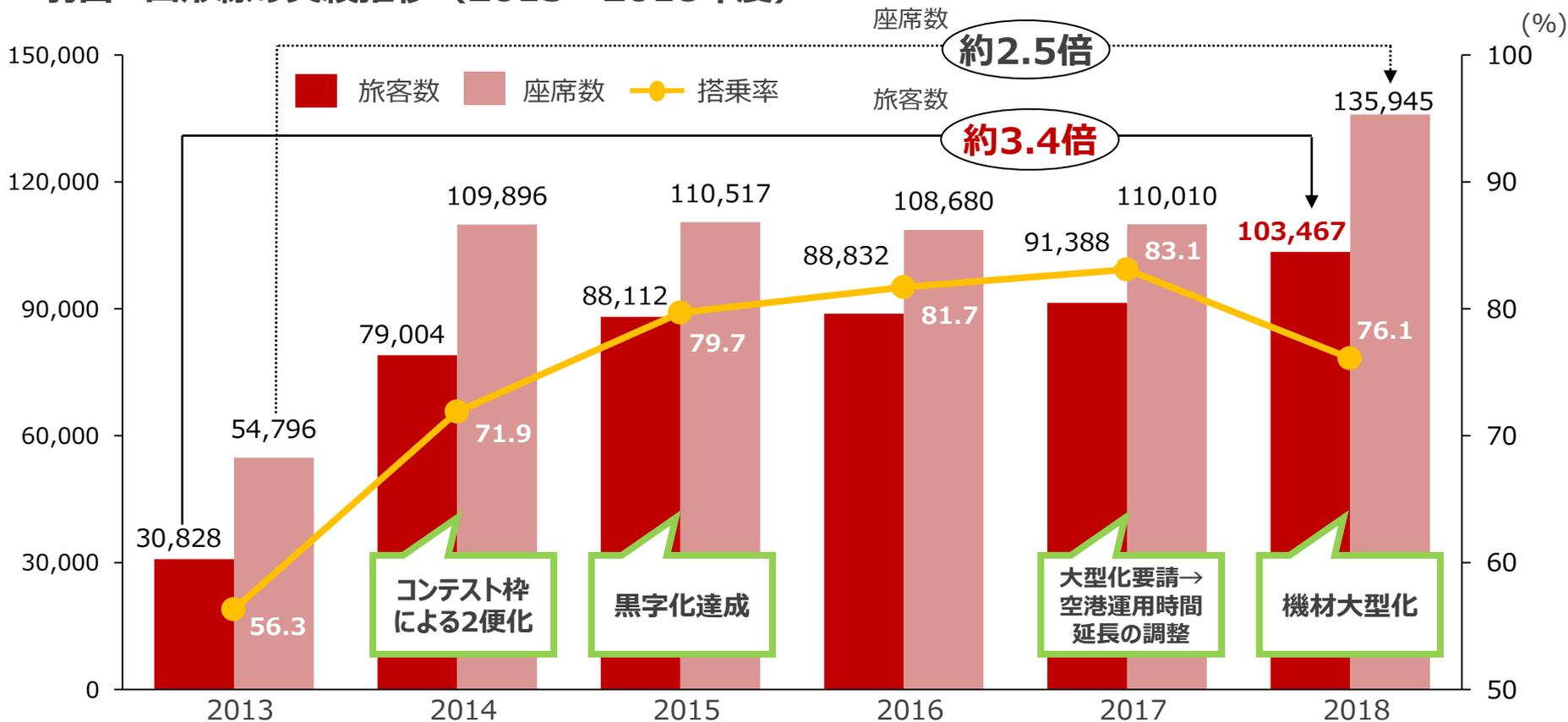
2019（平成31）年4月26日

日本航空株式会社

(1) 羽田=山形線について

- 山形新幹線の開業・延伸に伴う需要減少により、**2002年に一旦運休（他社）**。
1便ルールに基づく発着枠の配分を受け、2003年より当時のJASが運航を再開。
- 2014（H26）年度より**政策コンテスト枠を活用して1便→2便**へ増便を実施。
- 山形県や周辺自治体との協業も功を奏し、2013年度比で**座席数約2.5倍**に対して、**旅客数は約3.4倍にまで成長し、10万人を突破した**。

羽田=山形線の実績推移（2013～2018年度）



(2) 政策コンテストにおける取り組み

共同

路線収支共有制度

収支が黒字の場合は自治体とJALで折半、赤字の場合も両者で等分負担する制度。共通の数値目標を見える化することで、両者が協力して取り組みを具体化。

県=JAL連携会議



実績確認や需要拡大施策の協議のため定例会議を実施

夏期貨物輸送



路線収支向上を目的にさくらんぼの出荷時期に貨物輸送を実施

共同プロモーション



山形県・周辺市町

周辺市町の市報を活用した運賃告知



山形市・東根市・天童市・村上市など利用拡大推進協議会加盟市の市報で地域に根ざした告知

JR駅と空港を結ぶ



片道新幹線利用の要望に応え、新幹線停車駅まで500円のライナーを運行

ビジネス旅客の組織化、ラウンジ拡充



ビジネス旅客の増大に向け、サポーターズクラブを設立（参加700社） 空港ラウンジも拡充

新幹線と同水準の割引運賃設定



新幹線との共用も想定し、利用し易い水準の運賃を設定

運賃例

JAL山形線特便1 (タイプC)	9,700~11,310円
JR新幹線つばさ	10,450円

インバウンド誘致



片道5,400円の訪日外国人向け運賃を設定

県:空港運用時間延長

JAL:機材大型化



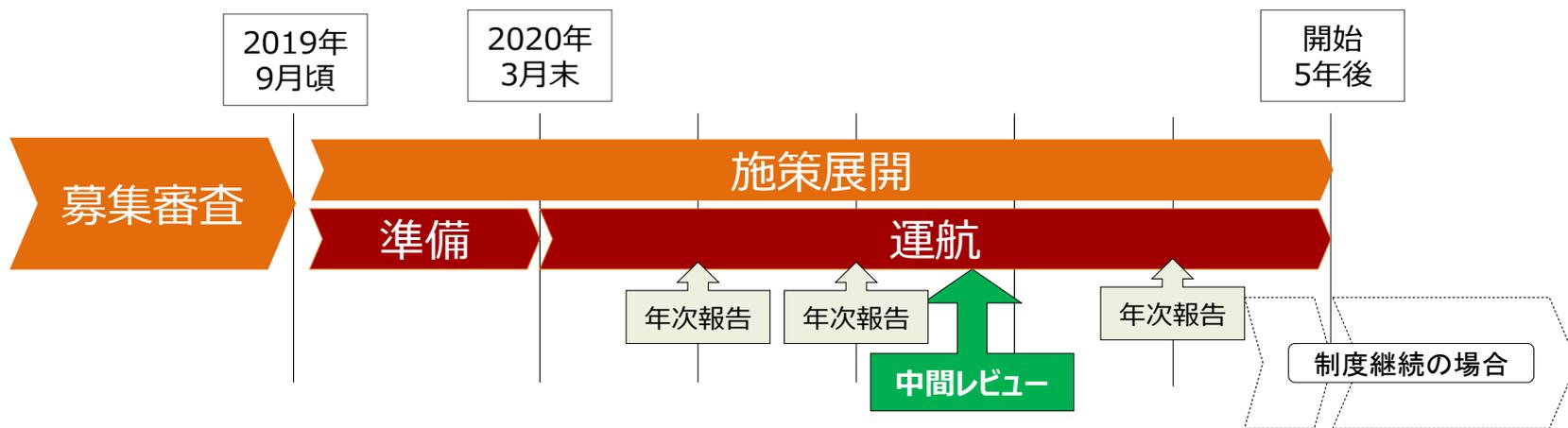
クラスJを設定したE190の投入でビジネス旅客のニーズに対応

JAL

(3) 今後の政策コンテストについて

- ▶ コンテスト制度は、地域における航空インフラに対して自治体とエアラインが共通の目標に向かって緊張感をもって協力し、**PDCAを回す**ことで路線を発展させる有効な制度であり、今後も継続していくことが望ましい。
- ▶ **路線育成に向けた中期的な取り組みのし易さからは、発着枠の使用期間を5年間**とすることが望ましい。ただし、自治体とエアラインの継続的な取り組み維持の観点から、自治体と航空会社は航空局に**年次の取り組みを報告、中間レビューを実施**し、当制度に基づく活動状況をモニターするとしてはどうか。
- ▶ 既存の3路線の継続使用も想定し、**さらなる自治体の参画機会を確保すべく、対象枠数を若干増加させる**ことも検討すべき。

政策コンテスト実施イメージ





日本航空株式会社